

59年高校総体(インターハイ) 主役はわたしたち



新春座談会

全国から約三万六千人の選手・役員が参加して、「全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」が今年七月三十一日から県内二十市町村で開催されます。大館市でも八月一日から四日までウエイトリフティングが、同じく十七日から二十日まで水球がそれぞれ市民体育館、工業高校で開かれます。そこで現在開催に向けて準備を進めている市内各校のインターハイ推進委員の皆さんにお集りいただき、開催に向けての抱負、歓迎のしかたなどを市長と大いに語ってもらいました。



市長 高校生と大いに語る

〈出席者〉

蛇川起恵子さん (桂 高校2年)	田村ひとみさん (東 高校2年)
大川 拓くん (工業高校2年)	樋口 睦広くん (商業高校2年)
川島 史昭くん (南 高校2年)	市長 畠山健治郎
田川優香子さん (鳳鳴高校2年)	司会 菅 純一郎

(市社会体育課長)

友だちの輪を つくりたい

司会・皆さん、明けましておめでとうございます。さて、今日は新春座談会「59年インターハイの主役はわたしたち」と題しまして、市内六高校の代表六名と市長の出席をいただき、それぞれインターハイ開催に向けての抱負などを大いに語ってもらいたいと思います。

市長・言うまでもなく、インターハイというのは全国的なイベントなわけです。大館開催がどうのというわけではなく、皆さんにとってはただ一度の貴重な経験になるのですから、自分たちの青春を思いきりぶつけてほしい。それと、皆さんは「一人一役運動」ということで頑張っているようですが、一役とは、どの部分の具体的に何を受けるのか知る必要があるでしょう。

大川・インターハイでは、わが工業高校が水球の会場になっていますが、来てくれた選手みんなに堅苦しくない「友だちの輪」を作るという気持ちで接したい。

樋口・名古屋に視察に行っただけですが、素晴らしい大会で、特にこういう人は底抜けに明るかったのに、秋田県人はどっかという口下手の消極的なところがあるので、もつとうまくしゃべれるようにしたい。

市長・わたしは口下手、大いに結構だと思いますよ。上手に言おうとするから、逆に引っ込み思案になってしまう。



田川さん

川島・南高校はウエイトリフティングの担当になっています。会場が、学校から市民体育館になりましたが、全校生徒で参加し、成功させたいと思っています。

田川・鳳鳴は、水球とウエイトリフティングの練習会場になっています。選手の皆さんにベストを尽くしてもらえよう、歓迎態勢を十分に整え、それから、学校独自の何かをやりたいと思っています。

田村・東高校は環境美化の担当になっています。名古屋では、花いっぱい運動を展開していたようですが、地域が広がったせいもあり、まだまだ花が不足していた感じがしました。大館では会場に入った人に、ひと目で「きれいだなあ」と思われるように頑張ります。

蛇川・桂高校では受付を主に担当します。選手や、外部の人が大館に入って来て最初に接するのがわたしたちですので、笑顔で迎えたいと思います。

自分の役割を しっかりと把握して

司会・名古屋の場合、施設はオリンピックを想定して作ったわけですが、大変素晴らしいものだったので、一方で、視察した方々は大都市ゆえに住民の関心の低さを指